

別表1C. 特定共同研究(C) 課題一覧表 (順不同)

平成20年度

<p>「首都直下地震防災・減災特別プロジェクト：①首都圏周辺でのプレート構造調査，震源断層モデルの構築等」首都圏で中感度地震観測網を構築して自然地震を観測し，このデータに基づいてプレート構造を推定し，制御震源等を用いた地殻構造探査の結果と合わせて首都圏で発生する大地震の震源域の地震学的構造を明らかにする．歴史地震等の記録の収集・整理・再評価を行い，首都圏で発生する大地震の発生時系列を明らかにする．さらに，首都圏で発生する地震の震源断層モデル・地下構造等のモデルを高度化して，南関東で発生するM7程度の地震をはじめとする首都直下地震の姿を明らかにし，首都直下地震の長期予測の精度向上や，高精度な強震動予測につなげることを目的とする．本サブプロジェクトは，4つのテーマに分かれている．</p>		
<p><b>2008-C-03</b> 首都直下地震防災・減災特別プロジェクト：①首都圏周辺でのプレート構造調査，震源断層モデルの構築等 (1) 地震計を用いた自然地震観測によるプレート構造調査  (2008)</p>	<p>○小原一成 (防災科学技術研究所) ・平田直</p>	<p>(1) 地震計を用いた自然地震観測によるプレート構造調査．首都圏に新たな中感度地震計を機動的に配置し，定常的な自然地震の稠密観測を行う．これにより，精度の高い震源分布や地震波速度・非弾性常数の三次元的な分布を明らかにする．また，プレート境界面の形状やプレート内における弱面の存在等を把握する． 参加条件：特になし</p>
<p><b>2008-C-04</b> 首都直下地震防災・減災特別プロジェクト：①首都圏周辺でのプレート構造調査，震源断層モデルの構築等 (2) 制御震源を用いた地殻構造調査  (2008)</p>	<p>○伊藤谷生 (千葉大学理学部) ・佐藤比呂志</p>	<p>(2) 制御震源を用いた地殻構造調査．首都圏において，制御震源を用いた反射法・屈折法地震探査等を行い，10km～15km程度の深さまでの地震波速度構造や不連続面の形状等を把握する．また，その際に設置する稠密アレイなどを用いて自然地震波干渉法構造探査を行い，より深い地殻構造の詳細データを得る． 参加条件：特になし</p>
<p><b>2008-C-05</b> 首都直下地震防災・減災特別プロジェクト：①首都圏周辺でのプレート構造調査，震源断層モデルの構築等 (3) 歴史地震等の記録の収集，整理及び再評価  (2008)</p>	<p>○山中佳子 (名古屋大学環境学研究所) ・島崎邦彦</p>	<p>(3) 歴史地震等の記録の収集，整理及び再評価．歴史地震及び近代観測がなされて以降の地震について記録を収集，整理するとともに，プレート構造調査，地殻構造調査の成果等を踏まえた解析を行うことにより，これらの地震について再評価し，地震調査推進本部地震調査委員会が「その他の南関東の地震」としてまとめて評価を行ったM7程度の地震の震源域の位置(プレート境界型地震，スラブ内地震)，繰返しの有無等を推定する． 参加条件：特になし</p>
<p><b>2008-C-06</b> 首都直下地震防災・減災特別プロジェクト：①首都圏周辺でのプレート構造調査，震源断層モデルの構築等 (4) 震源断層モデル等の構築  (2008)</p>	<p>○竹中博士 (九州大学理学研究院) ・瀧川一樹、古村孝志、三宅弘恵</p>	<p>(4) 上記(1)(2)(3)で得られた結果やその他のデータ等を総合して，プレート境界地震，スラブ内地震のそれぞれについて，地震発生場所の絞込み，地殻やプレートを含む地下構造モデルの構築，さらには震源断層モデルの構築等を行う．首都圏に脅威をもたらす地震の解析，地下構造モデルの構築なども行って，長周期地震動予測地図や首都直下地震の強震動予測につなげる．また，震源断層モデルや強震動予測の高精度化のため，地震の破壊成長とスケールリング，スラブ内地震による強震動予測，高速な地震動予測手法などの研究を行う． 参加条件：特になし</p>